

社会における技術の果たす使命

コニカミノルタホールディングス株式会社

常務執行役 谷田 清文



経営戦略と技術戦略の融合が叫ばれて久しいが、グローバル競争社会の今日、研究・開発が企業価値の創造のエンジンとして事業革新を推進していかなければならない時代を迎えています。

ボーダレスのグローバル社会において新興国の躍進が目覚しく、現代の基幹産業と言える自動車産業においても中国・インド・ロシアでの生産展開は想像を超えるスピードで構築されつつあります。設備の高度化・自動化・IT化がノウハウ・ナレッジを支えているからであり、モノ作り日本のお株を新興国に脅かされています。棲み分けられていた世界の生産工場としての中国から、モノ作りの中国に変身を遂げようとしており、存在感を高めつつもあります。日本においては、従来の取組みから、益々変化への適応力とスピードを高め事業革新を推し進める研究・開発を強化しなければなりません。

さて、弊社は2003年8月にコニカとミノルタが統合して発足し、『新しい価値の創造』を企業理念としてグローバル企業を目指し、事業統合のスピードを上げてきました。また、デジタル化・機器・サービス事業への転換を加速させるために選択・集中として、2006年1月にアマチュアフィルム・カメラ事業の終了を決め、事業革新の中核に位置づける研究・開発に優秀な人材を投じることで差別化技術の構築・強化を進めて参りました。変化のスピードに乗り遅れず先取りするために自前主義から脱却し、外部から足りない技術の補完を積極的に推進し、連携・投入も図っております。最近ではIT・ソフトウェア技術の急速な需要からインドのIT企業HCLテクノロジーズ社とパートナーシップの提携を行い、インドに開発拠点を設立しました。また、次世代照明と期待される照明用有機ELの開発と商業化を加速させるためGEと戦略的提携をいたしました。現代のグローバル社会では、一社の力で生き残ることが困難な時代を迎えています。お互いの強みを提携企業と協力し創造することで予想を超えるパワーやスピードが期待されます。技術開発を推進し、差別化技術を構築してトップシェアを形成すべく努力を戦略的に進めてまいります。

一方で、事業革新を進めるには選択・集中、補完だけでは競争力の基盤を整備するだけで社会に新しい付加価値を提供するには至りません。明確なビジョンを据えてその分野・技術において「とんがる」ことが必要です。

弊社は経営ビジョンとして『イメージングの領域で感動創造を与え続ける革新的な企業』『高度な技術と信頼で市場をリードするグローバル企業』を掲げ、モノ作りの研究・開発を進めております。明確な経営ビジョンの基に社会に変革を与えられる技術開発を進めることが社会に果たす使命でもあり企業としての存在感をもたらす原動力でもあります。

本号は弊社経営ビジョンに沿って各事業分野・技術分野における「とんがり」にこだわった成果の一端であります。オフィス・プロダクションプリント、メディカル等のイメージング領域や画像形成のキーパーツ・モジュールにおけるレンズユニットやそれらを高精度に実現する生産技術等の多岐において、お客様に感動創造を与え続けるモノ作りのこだわりを結実させ、それらの技術革新によって新たな価値を社会に提供していきたいと考えております。

また、個々の製品一つ一つが生み出す価値が社会に与える影響は小さくても、それぞれのこだわりやシステムとしての連携が同じビジョン・視点であれば、社会を変える大きなパワーとしての潮流を生み出すことが期待されます。本号のヘルスケア分野での「REGIUS CLINIC SYSTEM」は、診療所・地域医療での医療の質・効率を高めることにこだわった各技術・製品ですが、システムで導入・展開することにより、診療所の先生や患者様に高度医療を安価に安心してお使い頂ける環境に変革するものと祈念しております。これが前述のシステム化によって変革を生み出すシナジーの一例とも言えます。

現在は、社会を変革するモノ作りの「こだわり」「とんがり」が企業の存続・存在価値として必要な時代です。私どもは研究・開発を強化・加速し、今後もより一層社会への使命を果たして参りたいと願っています。